

防災とは。

出来事を知り、日常の行動を意識化しよう。

その時に何が起き、何を思うのか。
感じてみよう！其の時を。

— 「地震後世俗語之種」より

活用資料名: 「地震後世俗語之種」

<https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11F0/WJJS07U/2000515100/2000515100100010/mh010101>

出典: 信州地域史料アーカイブ(資料保存機関: 信濃教育博物館)

<https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11C0/WJJS02U/2000515100>

利用規定:

<https://trc-adeac.trc.co.jp/Html/MunicipalityHelp/2000515100/aup.html>

善左工門家内本城より權堂
田甫丹歸る路よりかゝれ五日
昼己の魁吹岩石町裏通りに
火とたる焼亡を見るる弟畧

庄五郎
将乾三
町中藏
善左門
妻イト
娘三子

これはどうい うこと？

- いつ
- どこで
- 何が

- 屋根の上の傘？



災害にあった時の心情を想像してみる

•ねらい

心情を汲み取って考えてみることは自分自身の日常の些細なことにも意識して取り組めるようになることに繋がります。

絵図から汲み取れる人々の行動とその行動にあらわれる心情（願いや思い）を感じるままに発表しましょう。

日常の行動を意識化して、防災について考えるきっかけとしましょう。

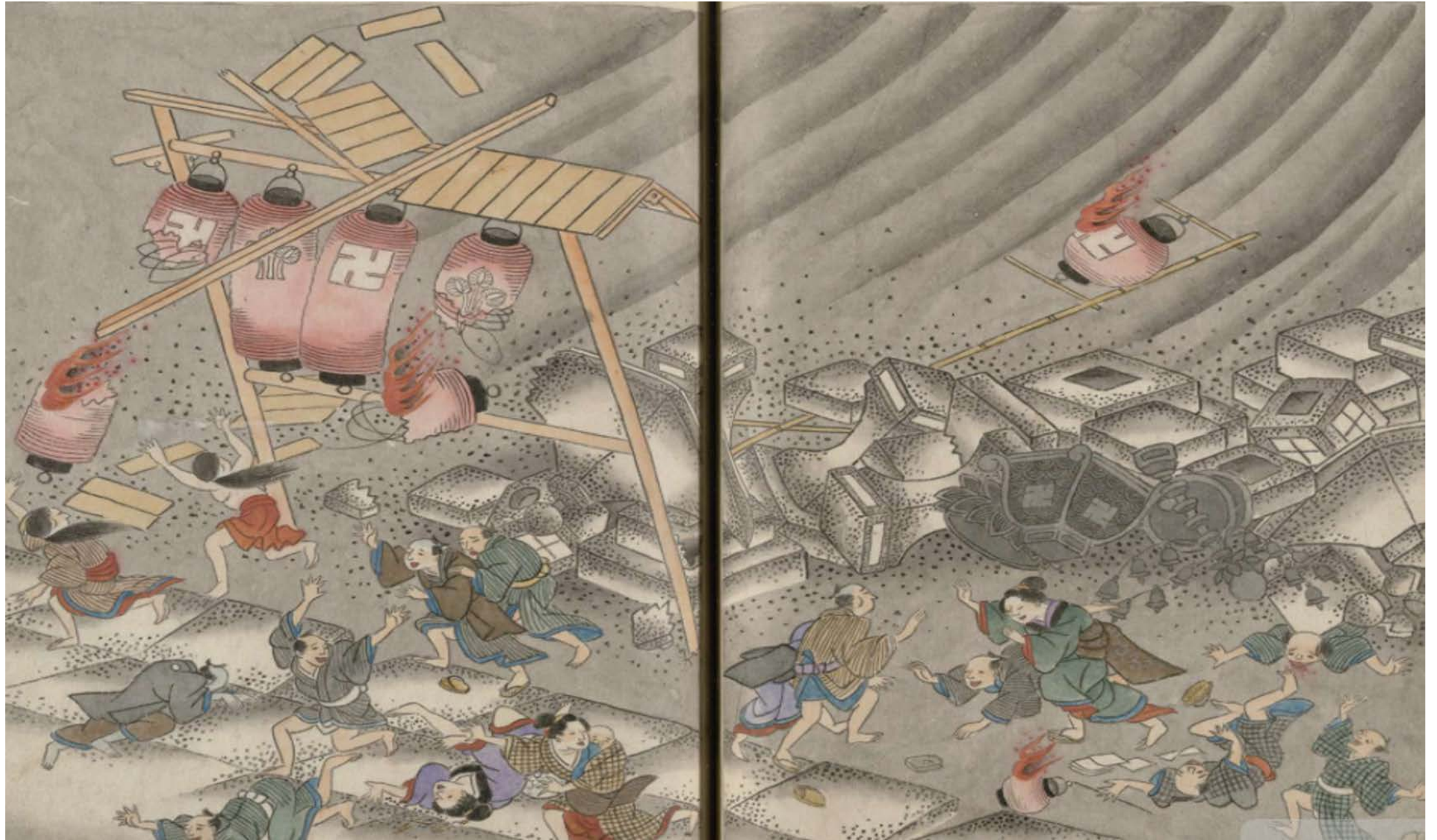
災害にであった！ その後…

絵図から汲み取れる人々の行動とその行動にあらわれる心情（願いや思い）を感じるままに発表しましょう。

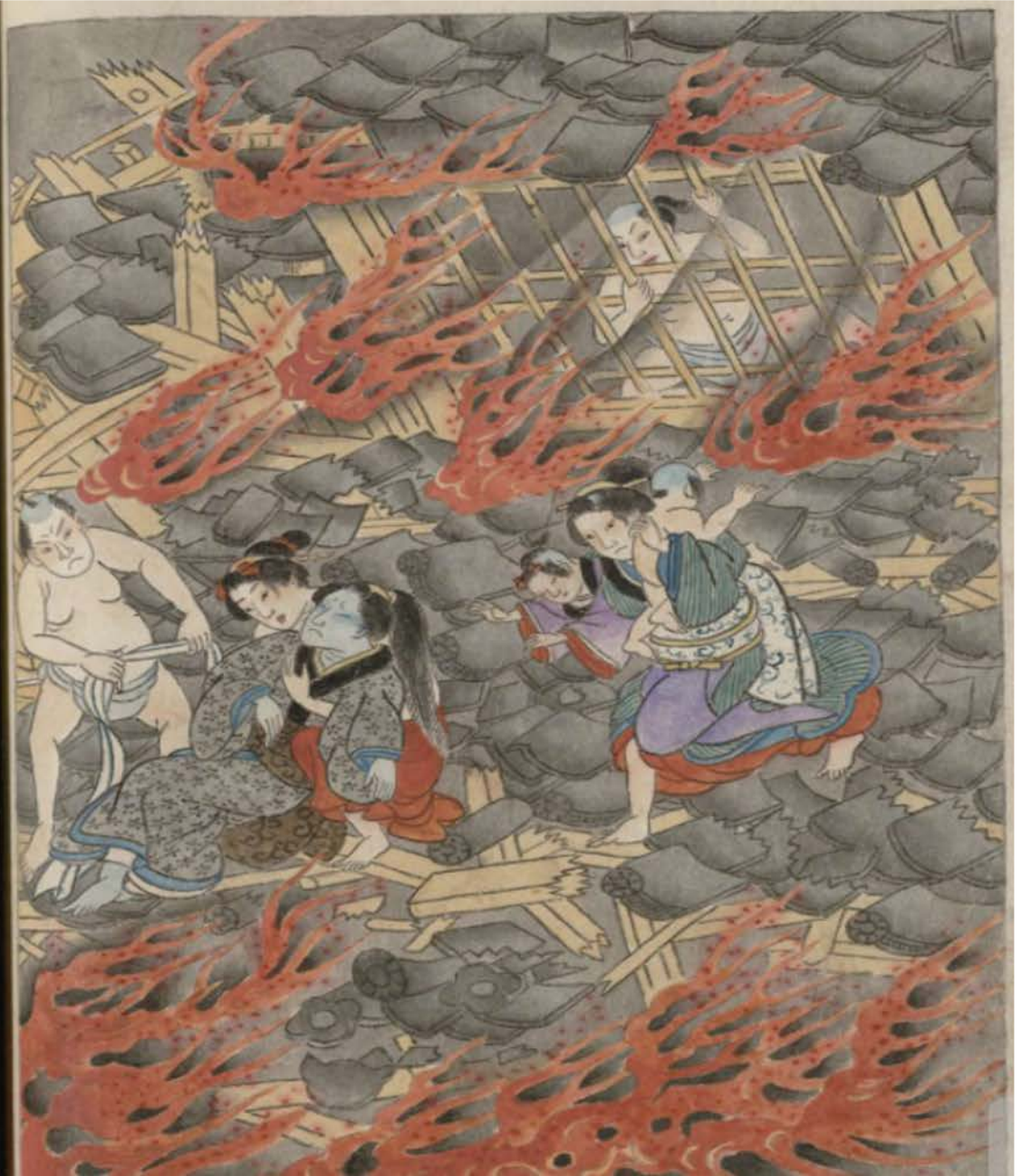
[ねらい]

心情を汲み取って考えてみることは自分自身の日常の些細なことにも意識して取り組めるようになることに繋がるのではと考えます。

なにが起きてる？



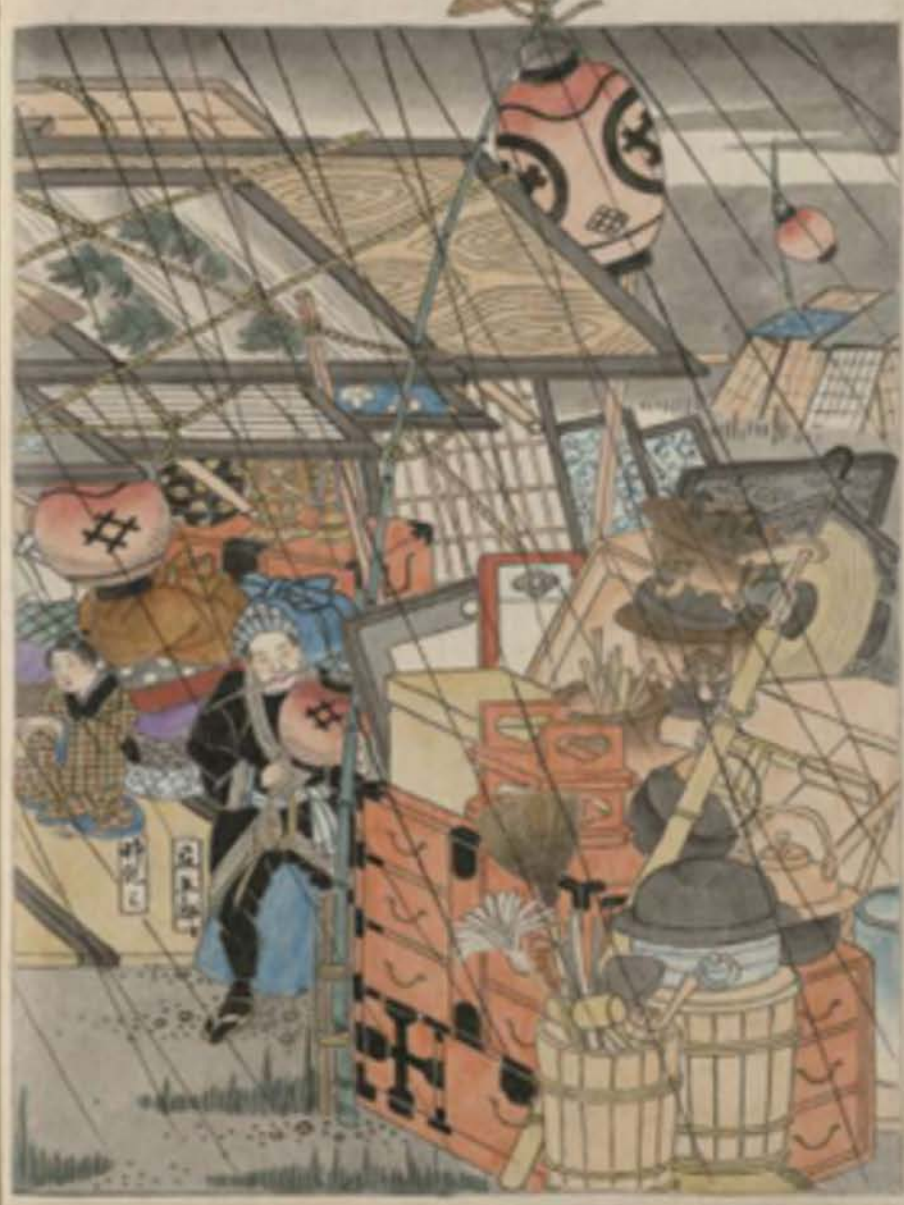
大地震 大火



大地震の翌日

城山で一夜を過ごした善左衛門の家族（家内）は、翌25日の午前中に権堂に帰りました。その途中、午前10時頃に岩石町の裏通りを行く善左衛門一家が、右下に描かれています。先導するのは大工の庄五郎です。善左衛門幸一は持病が出て歩けないので、田町の由蔵に背負われています。ここは鐘鑄川沿い





永井善左衛門幸一の飯屋です。戸板や襖などを組み合わせて
 縄で結んだのは唐傘の名主としてお上から預かっただけの札の
 めり根にはこれでは名主と善左衛門の妻糸の姿が描かれてい
 てありまして、この女のみと大工の庄五郎の口にくわえてしま
 大切に扱って、下らしく棒のようなものを口にくわえてしま
 乾のほかに、職人のみと大工の庄五郎の姿が描かれてしま
 三つ五郎は、扱って、下らしく棒のようなものを口にくわえてしま
 庄のほかに、職人のみと大工の庄五郎の姿が描かれてしま
 つきで、扱って、下らしく棒のようなものを口にくわえてしま
 他の4人の心、表して、か、の、よ、う、で、す。
 手、の、心、を、表、し、て、か、の、よ、う、で、す。
 た、の、心、を、表、し、て、か、の、よ、う、で、す。
 こう、の、心、を、表、し、て、か、の、よ、う、で、す。

1109の続きです。善左衛門は羽織のようなものを頭からかぶって、雨をよけながら手を合わせて祈っています。一方で庄五郎の母ムメは、懸命に飯を焚いています。善左衛門の背後のピンと張った綱も印象的です。



地震発生から7日 追善供養



地震発生から7日たった4月1日、永井善左衛門幸一は普濟寺（田町）の巨竹和尚を導師に迎え、野外に畳を敷いて犠牲者の追善法要を行いました。施主の善左衛門は、右下で合掌しています。息子の乾三も、背後で小さな手を合わせています。背の仮屋も、屋根を葺くなどだいぶ整って来たようです。町は完全に焼け野原となり、善左衛門の家の跡も「善左エ門焼跡」と表示されています。しかし人々はすでに復興に向けて動き出しています。